

漫

画

18P

手でこんな
でくれている

今まで
ウジウジ
自分が馬

ちい
さう

7月27日完結

酒場でボロボロに
なっていたカーヴェを拾って
きてから数日

カーヴェ

家事も料理も
する必要は無いと
言っただが

えっ

ギョッ

で…でも

トリ
キル

家賃や
生活費は
不要

(だから早く
借金を返して
出ていけ)

と伝えたが
理解してい
ないらしい

やっちゃ
いけないって
ことは無いだろ

僕は住まわせて
貰ってるんだし
家事も料理も
得意だし…

僕の方が絶対に
君よりも
上手く出来るぞ！

ぶん

ぶん

ま…まさか
追い出す気じゃ…
待ってくれ！
僕の有用性を証明する

ギョッ

…はあ

仕方ない

俺は充実した
毎日を送って
いるが…

一つだけ
君が役立てる
ことがある

な、なんだ？
僕に出来る
事なら…

俺の生活で今現在
多少困っている事…
アナルを使った自慰

アナニー
についてだ

はへ？

あ？

アナ…
え…？

アナニーは
数年間続けていて
オーガズムに
達せるまで
自己開発済みだ

十分満足して
いたのだが

最近アナルの
オーガズムには
まだ**先**が
ありそうだと
気づいた

先…

そうだが
自分が一人では
理性が邪魔をして
手を止めてしまう

ピストンマシン
大掛かりな機械を
購入しようか
検討していたが
君が手伝ってく
れるなら
モラが多少浮く

な…何だ？
アナニー？
僕を試している
のか？

それ以外に
困っている
ことはない

僕を罠に
ハメようとしている？
アルハイゼンの
考えている事が全く
理解できない！俺は

今の生活に
満足しているし
君を養っているの
金も余っている

いや…そんなの昔からか…
僕にこいつの
考えている事なんて…

分かったつもりでいた
時期もあったけど…
あれは間違いだった！
俺は余計な事を
返せる様に
探しに行…

だが衣食住を提供して
貰っている手前
何かしなくては…

しかしモラは無い…
なら…



ア…アナニーを
手伝おうじゃ
ないか！全力で！

君の

…分かった

ん
外出するなら
多少のモラは
渡す

は？



ぼ…ッ！
僕を馬鹿に
しているのか！
人がせつかく…

もういい！
仕事を探しに
行く！

…となる想定
だったのだが

こんな提案を真に受けるとは…
思っていた以上に
自己肯定感が歪んでいる様だ

役割を与えたほうが
落ち着くか…

それにこれは俺にとって悪くない展開だ

理性の先が見たいのは事実
カーヴェの手を借りれば
機械では不可能な
細かな軌道修正も
ノータイムで可能…

ムラッ

もちろん途中で辞めても良いし
俺に何らデメリットはない

…やるか

その日の夜

まず慣らして
挿入するように
待っている



あ…ああ…

アルハイゼン
こ…こんな
太いのを使うのか…



良く考えたら
アルハイゼンのオナニーを
見ることになるのか…

ドキ
ドキ

しかも
手伝うだって…？
変な気分だ

とわっ

教令院生時代の
アルハイゼンは
小さくて
女の子みたいに
可愛くて

軽く…本気で…
恋していた
時期も
あったけど

それは過去の話



今は見た目も
完全に男なのに…

女の子みたいに
『穴』で
オーガズムを…

まずペニスを
勃起させて…

んっ

んっ

くちゅ
くちゅ
くちゅ

前立腺を
刺激する
準備をする

自己開発で
完璧に育った
前立腺だ
すぐに快感を
得られる

はっ

はっ

へ…へえ…

ふう…っ

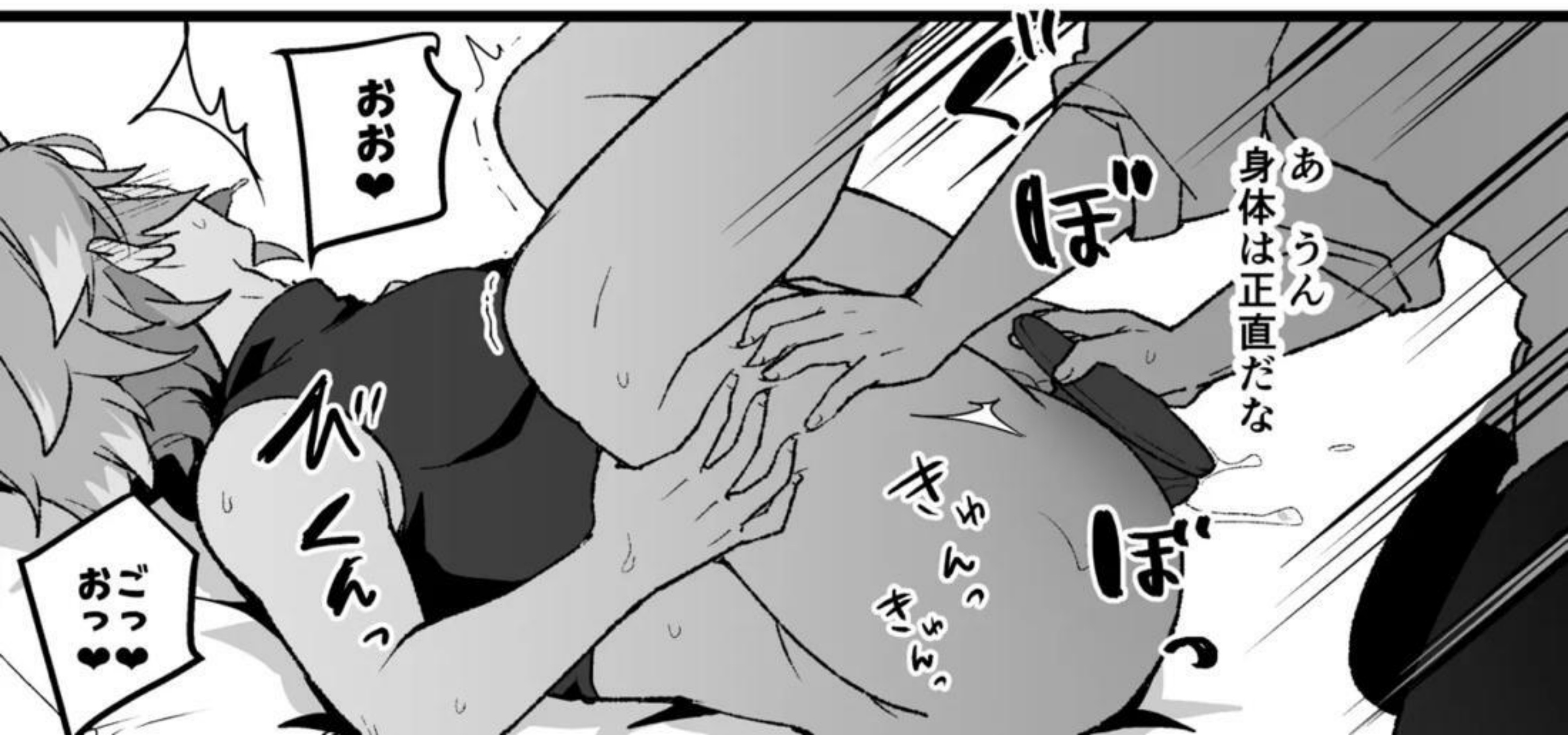
んっ

んっ

ふっ

お…っ







こ...
これは...っ♡
想定
以上だ
はー♡

一人で何でも出来る
アルハイゼンが
僕を頼ってきた
んだから...

続けて...♡

僕じゃなきゃ
出来ない事なんだ

……っ♡

ビク

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

ビク

ゴッゴッ

グッ

ン

ン

ん

グッ

ン

腰へこついてる…
気持ちいいんだ
やりがいを
感じる

……

グッ

アルハイゼン…
声我慢してる？

声が我慢
出来ないくらい
責めて気持ちよく
してあげよう

別にアルハイゼンのか
喘ぎ声が聞きたいとか
そ：そんなやましい
理由じゃないぞっ

無一文の僕が今
家賃として
貢献できるのは
これくらいだから



声を抑える
つもりだったが
気持ち良すぎる

カーヴェの器用さが
こんなところでも
発揮されるとは

はーっ♡

はーっ♡





ああ…ここだ…

いつもここまでは
いけるんだが

あっ♡

ダメだ
カーヴェエ

この先が
知りたいのに…

もう止め

本能的に止めようと
してしまう

せつかくの
チャンスなのに

カーヴェエ…
止ま…♡

む！
止めようと
している



ここが！
この先が！
知りたいんだな
アルハイゼン！

任せろ
僕が導いてやる！

は……
な……何故
伸し掛かって……

先輩として！

……！
ディルドから
逃げられない

おっ
♡



カーヴェの体温を感じる
熱くて心地よい圧迫感……



止めて欲しいのに
止めて貰えない

ソコレイ
一人ではあり得なかった
熱さと強引さだ……



身体と精神をこの男に捧げる
準備して……♡



屈服して
メスの自賞♡



なにか...

く...来る♡

おそらくこれが...
見たかった理性の...

オッ♡♡

うおっ
跳ねる

おおおおん♡

こんち♡こんち♡
こりえが...っ♡

ふんふん

さささささ

んおん♡おおお♡
んおおお♡

ほおおお♡



すまようび

アルハイゼン
凄い声だなー

アルハイゼンを
今こんなになに
乱しているのが
僕だと思ふと……

すまようび

たまらない

ぐぐぐ

ガク
ガク

おっ

すまようび

僕の手でこんなに
喜んでくれている

ああ……
満たされていく

今まで
ウジウジ悩んでいた
自分が馬鹿らしくなる

おっ

おっ

ちゅ

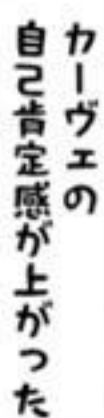
ちゅ

ちゅ

ちゅ

ちゅ

おっ



いいかい
アルハイゼン
僕は！

さっさと
借金を返して
こんな家
出ていってやる！

だ…だが
モラが無い間は
仕方ないから…
家賃として…その…

君の趣味を
サポート…
する…！！

カーヴェ…
ずっとウジウジ
していたが…

そうか
俺がアニニを
するのは毎週末だ

自力で
立ち直った様だな

君の時間が
取れる時は
声をかけてくれ

そっ、
そっ、

立ち直った
彼の腕ならすぐに
借金を返せるだろう

ふ…ふーん
じゃあ今週末…
とか…

分かった

この選択が
アルハイゼンの生活を
変えてしまうのだが…
それはまた別の話

END